

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 NPO 法人 浜松外国人子ども教育支援協会

1 事業の趣旨・目的

平成20年秋以降の不況により、外国人労働者が大量に失業し、行き場を失った子どもたちが増え続けている。その結果、日本語習得の重要性の認識が広がり、日本語教育支援活動拡充への期待が高まっている。

しかし、一方、それを可能とする人材は、絶対的に不足している。退職教員などの増加を背景に、日本語指導者・支援者を速成する、実践型短期養成講座を急設し、地域のニーズにこたえることを目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2009年 6月20日 (第1回)	はまホール 会議室	浜松市教育委員会 学校教育課 指導課 課長 石川 和男	・講座内容についての説明 ・養成講座受講者募集及び終了後の連携のお願い	・理事長挨拶 ・運営委員紹介 ・委託業務内容・講座内容の説明 ・養成講座受講者募集及び終了後の連携のお願い
		財団法人 浜松市文化振興財団理事長 財団法人 浜松国際交流協会 副理事長 NPO 法人浜松外国人子ども教育支援協会顧問 庄田 武		
		磐田国際交流協会 会長 高橋 一良		
		掛川国際交流センター 事務局 松浦 彩美		
		もうぶ日本語研究会 代表 小林 節子		
		NPO 法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長 龍口 伸子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 事務局 事務局長 NPO 法人 浜松外国人子ども教育支援協会 常務理事 田中 恵子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 基礎学習教室「まなびっこ」指導部長 平野 伊子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 日本語教室「はまっこ」教材研修部長 NPO 法人 浜松外国人子ども教育支援協会 理事 大倉 玲子		

		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 日本語教室「はまっこ」 指導員 本企画 担当者 青島 晴己		
2010年 2月28日 (第2回)	はまホール 会議室	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 准教授 池上 摩希子	・講座内容の 経過報告 ・養成講座受 講者修了後 の連携のお 願い	・運営委員長挨拶 ・理事長挨拶 ・委託業務・講座内容の 報告・評価 ・養成講座受講者修了後 の連携について
		磐田国際交流協会 会長 高橋 一良		
		掛川国際交流センター 事務局長 岸川 順子		
		もうぶ日本語研究会 代表 小林 節子		
		NPO 法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長 龍口 伸子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 事務局 事務局長 NPO 法人 浜松外国人子ども教育支援協会 常務理事 田中 恵子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 日本語教室「はまっこ」 教材研修部長 NPO 法人 浜松外国人子ども教育支援協会 理事 大倉 玲子		
		浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業 日本語教室「はまっこ」 指導員 本企画 担当者 青島 晴己		

【写真】



第1回 運営委員会



第2回 運営委員会

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 外国につながる子どもたちのJSLを含む 日本語教育支援者 実践的養成講座
- (2) 養成講座の目標 JSLを含む日本語教育を指導できる人材を育てる
- (3) 受講者の総数 32人
- (4) 開催時間数(回数) 42時間 (12回)
- (5) 参加対象者の要件 現職教員・退職教員 各種の日本語教師養成講座修了者
子どもへの日本語教育経験者
- (6) 受講者の募集方法
- ①当 NPO 法人 TOMO2 ホームページに掲載
 - ②掲載依頼
 - ・磐田市広報
 - ・新聞社（静岡新聞、朝日新聞、中日新聞）
 - ・Nポケット
 - ・パレットニュース
 - ・風新聞（浜松まちづくりセンター通信）
 - ・教職員互助会新聞
 - ・TOMO2 ホームページ
 - ③パンフレット、ポスター配布先
 - ・浜松教育会館
 - ・浜松国際交流協会
 - ・ZAZACITY パレット
 - ・浜松学院大学
 - ・静岡文化芸術大学
 - ・静岡大学
 - ・NPO 法人 TOMO2
 - ・にほんご NPO
 - ・ジャボラ
 - ・そらの会
 - ・龍の会
 - ・クリエイト浜松
 - ・あいホール
 - ・U ホール
 - ・福祉交流センター
 - ・各地区公民館
 - ・各地区図書館
 - ・浜松東区役所
 - ・磐田市役所
 - ・磐田市教育委員会
 - ・袋井国際交流協会
 - ・静岡県国際交流協会
 - ・日本語カフェ
 - ・運営委員の皆さまへのご協力お願い

あなたの経験を活かしませんか

外国につながる子どもたちの JSLを含む
**日本語教育支援者
実践的養成講座**

あなたの経験・知識 + 本講座

↓
将来を担う子どもたちの育成

講座の目的： JSLを含む日本語教育を指導できる人材を育てる

対象： 現職教員・退職教員
各種の日本語教師養成講座修了者
子どもへの日本語教育経験者

定員： 30名

期間： 平成21年9月12日(土)～平成22年2月27日(土)
原則として隔週土曜日 13:00～16:30

場所： 浜松市男女共同参画推進センター（あいホール）

受講料： 無料
(ただし、保険料、資料代として3千円を申し受けます)

申し込み： 当NPOホームページ
<http://www.ac.auone-net.jp/~tomo2/> から
または 裏面申し込み用紙をFAX：053-457-3006

申し込み締め切り： 平成21年8月7日(金)

主催： NPO法人 浜松外国人子ども教育支援協会 **TOMO2** (ともこ)

ポスター

チラシは添付資料として送付します。

- (7) 研修会場 浜松市男女共同参画推進センター
(8) 使用した教材・リソース 各講師レジュメ、パワーポイント

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
H 2 1 9月12日 13:00～16:30	浜松市における外国につながる子どもたちが置かれている現状 外国につながる子どもたちへの教育支援の現場から	浜松市教育委員会 学校教育部 指導課 課長 石川 和男 浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業事務局 事務局長 田中 恵子	31名
9月26日 13:00～16:30	JSL カリキュラムの理論と日本語指導への生かし方(1)	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 准教授 池上 摩希子	27名
10月10日 13:00～16:30	基礎学習教室「まなびっこ」におけるJSLの実践 小学校教諭としてのJSLの実践	基礎学習教室「まなびっこ」指導部長 平野 伊子 浜松市立遠州浜小学校教諭 櫻井 敬子	27名
10月24日 13:00～16:30	第二言語としての日本語指導	静岡大学国際交流センター 准教授 袴田 麻里	26名
11月7日 13:00～16:30	日本で育っていく生活者としての外国につながる子どもたち	静岡文化芸術大学 国際文化学科 准教授 エウニセ アケミ イシカワ	26名
11月21日 13:00～16:30	言語習得と JSL 児童生徒への日本語指導	東京外国語大学 留学生日本語教育センター 教授 伊東 祐郎	26名
12月3日 14:00～16:00 H 2 2 1月15日 14:00～16:00	日本語教室「はまっこ」見学 小学生対象 中学生対象	日本語教室「はまっこ」指導員及び教材研修部長 大倉 玲子 浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業事務局 事務局長 田中 恵子	12名 14名
H 2 1 12月5日 13:30～15:00 15:30～17:00	母国語教室「まっつこ」見学 ポルトガル語教室	母国語教室「まっつこ」指導部長 田村 エリザベス 浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業事務局 事務局長 田中 恵子	25名
H 2 2 1月16日 13:00～16:30	子どもに日本語を教える工夫とコツ	日本語教室「はまっこ」指導員及び教材研修部長 大倉 玲子	25名
1月30日 13:00～16:30	開発教材(ポケットカード)による動詞の教え方 一会う・会います・会わない・会ってー	日本語教室「はまっこ」指導員及び教材研修部長 大倉 玲子	25名

2月13日 13:00～16:30	家族で通う地域日本語教室 子どもと大人の教え方の違い 地域密着型日本語教室の紹介	もうぶ日本語研究会代表 小林 節子 磐田国際交流協会地域日本語教室「西貝教室」代表 大場 睦子	24名
2月27日 13:00～16:30	JSL カリキュラムの理論と日本語指導への生かし方(2) 振り返りとまとめ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 准教授 池上 摩希子 浜松市外国人子ども教育支援推進委託事業事務局 事務局長 田中 恵子	25名

(10) 講座の評価

1 受講生に対するアンケート

感想受講シートより抜粋

(第1回)

- ・浜松では、様々なかたちで外国人支援が行われていることがわかった。
- ・子どもたちが平等に教育を受けられるシステム作りが大事で、地域のサポートも不可欠だと思った。
- ・外国人の問題は複雑で根が深いことがわかった。
- ・情報提供したり、個別に接する機会を多くして、保護者との信頼関係を築きたい。
- ・ダブルリミテッド支援の偏りなどの課題に対し、取り組んでいるのはよいと思う。
- ・はまっこの子どもの成長に合わせた支援は、すばらしい。
- ・保護者にサポートしやすい環境をつくっていきたい。
- ・保護者指導は、難しい点があるが、どのようにしたらいいか、知りたい。

(第2回)

- ・JSL カリキュラムの理論は、参考になった。また、多くの課題があることもわかった。
- ・日常会話から指導内容を取り出し、広げていく具体的な方法や子どもたちの状況を踏まえた指導方法を勉強させていただいた。
- ・各グループに対する先生のコメントも適切で、わかりやすかった。
- ・浜松の日本語活動の各NPOや団体での独自の教授法を踏まえながら、ひとつのパターン化したシステムティックにまとめられた「浜松方式」があってもよいのではないだろうか。
- ・意欲を持たない子・初めから諦めている子に対してどのような支援ができるか模索中である。
- ・どこまでどれだけの基準がないことの難しさがよくわかった。
- ・教科書へのルビは、大切な支援のひとつだが、省略は、どこまで省略するか、児童生徒の能力を見ないとできない支援である。
- ・教材開発や担当者の研修が必要だと思った。

(第3回)

- ・外国人指導のシステムが遠州浜小では、確立していることに感心した。
- ・はまっこの教材や様々な教材の具体的実践を聞くことができ参考になった。
- ・たくさん教材を使えば、多人数にも対応できることがわかった。
- ・通常の普通学級や養護学級でも、わかりやすい楽しい授業になると思う。
- ・意欲のない子どもたちへの接し方、声かけの仕方等とても参考になった。
- ・教材の準備・工夫は、時間がかかるが、子どもたちのより理解のしやすさが大切だと思った。

- ・日本語を理解させつつ習得させていくという日本語授業の大切さを改めて感じた。
- ・ひとりの人間として見ることができ、信頼関係ができるにつれ、子どもがこちらを向くのを待つゆとりを持つことができるようになったという平野先生の言葉に納得させられた。

(第4回)

- ・母国語の習得と第二言語習得の違いを興味深く聞いた。
- ・外国人にとって日本語のわかりにくい点を明らかにする必要がある。
- ・実際に使われている日本語について場所・場面・時に応じて知ることは第二言語として習得させる上でとても必要だということがわかった。
- ・何から教えるかは、環境によって異なることがわかった。
- ・大人と子どもの教授法は異なり、ケースバイケースで使い分けが必要。
- ・相手が教えてほしい言葉、必要な言葉から教えることが大切ということ子どもにも応用して必要な言葉を選んで整理して教えていきたい。
- ・地域に住む外国人には、現実として方言も必要である。
- ・相手の言うことがわかって、発信できない人も多い。
- ・話す・書く訓練も多くすることも必要だと感じた。

(第5回)

- ・外国につながる子どもたちの様子を具体的な写真や実話で話していただいたので、興味深く聞くことができた。
- ・子どもたちの抱える諸問題、置かれている状態が理解できた。
- ・過剰な保護は、差別につながる可能性があるという指摘が印象的だった。
- ・ブラジルの日系移民の実情日本での日系人の実情がよくわかった。(ブラジルでは、盆踊り、日本では、サンバという言葉で表わされる立場)
- ・疑似外国語による会話というワークショップでは、外国人の中に放りこまれた外国人という立場が実感としてよくわかり、楽しかった。
- ・日本で子どもたちを健全に育てていくには、保護者が日本の習慣に馴染んでいく(郷に入っては郷に従え)ことも必要である。

(第6回)

- ・今回の講座により、「どうしてこうなるの」と思っていたことが「なるほどそうだったのか」と納得できた。とても解りやすく、大変勉強になった。
- ・どのような視点で、どのようなステップで支援していかなければならないか参考になり、実践したい。
- ・資料提供、ウェブの紹介が参考になり、今後生かしたい。
- ・外国語を習得するプロセスも、母語を習得する時と同じような過程があるので、沈黙期には話せなくても、話しかけることが重要であるということを知ったので心がけたい。
- ・言語習得のプロセスの中では、興味、関心や現実生活に役立つことなどを考慮して、フィルターが取り除かれるよう内容を組み立てるのが大切なことを再認識させられた。
- ・体験することや実物に触れて学ぶことの大切さと効果的な理由がよくわかった。
- ・日本の教科書は70~80%が複文で、日本の子どもにとっても難しいので、再考する必要があるのではないだろうか。
- ・JSLカリキュラムがよく理解できるようになった。JSLの必要性を感じる。
- ・中学の国語に出版社ごとにリライト教材があればと思う。
- ・生活面では流暢に話しているように見えても、文章はほとんど書けない。話したことをかかせることを実践したい。

・先生の講義を浜松の小中学校に先生方全員に拝聴してもらいたかった。

(第7回) はまっこ教室見学

- ・教材、教具がとても豊富で、よく準備されている。
- ・小グループで、子どものレベルに合わせて集中して学習させる工夫をしている。
- ・声にメリットをつけている。
- ・子どもの目の高さで話している。
- ・ゲーム等を取り入れ、飽きの来ない授業内容になっている。
- ・先生の根気強さを感じた。
- ・聴き取ったことをノートに書かせる学習活動は大切だと思った。
- ・少しにぎやかだった。
- ・カレンダーを「カレンダ」としか聞こえなかった。
- ・「さすが」の「が」は、鼻濁音なので、発音に注意した方が良い。
- ・教材、教具の紹介や、使いまわしの共有化ができないだろうか。
- ・子どもたちはのびのびと授業を受けて楽しそうだった。
- ・語彙を増やすために、生活に根差したものという配慮を強く感じた。
- ・教師の話をしっかり聞き、言いたいことがあっても我慢して、先生の話聞けるようにすることが大切だと思う。

(第8回) まつっこ教室見学

- ・異文化の中で生活していく大変さ、難しさに触れることができた。
- ・必死に学ぼうとする子どもたちの姿勢に関心した。
- ・日本の学校では、見られない子どもたちの熱心に学ぶ姿は、何が違うのか？
⇒親の協力・言葉の必要性
- ・話せても読み書きができない子が多く、習う機会がなかったのだとわかった。
- ・自国の言葉を読み書きできるようにするまつっこ教室は、自分のアイデンティティーのためにも重要な場所である。
- ・まつっこの事業内容の充実や展開が今後も継続されることを願う。
- ・レベルに合わせたグループ分け、自作のわかりやすい教具、板書のきれいさ、先生方の力量の高さによる質の高い授業に関心し、毅然とした教える姿勢に共感した。
- ・送り迎えの親たちの積極性、親たちの交流と連携があると感じた。

(第9回)

- ・聞くだけでなく、実際に手作り教材で体験でき、カードの使い方や学習の楽しさを教師と子どもの両方の立場になって経験できたことも大変良かった。
- ・一見子どもたちが遊んでいるように見えて、実は学習しているというような手作りの教材が工夫されていてすばらしいと思った。
- ・具体物を提示することの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・より実践的な指導の仕方、教える順序等が理解できてよかった。
- ・いろいろな教材を見つけ、またその提示の仕方を工夫して指導していくことの大切さを改めて感じた。
- ・視覚に訴える教材やカードは、とても参考になった。
- ・自分でも何か考え楽しく学べる教材作りをしたいと思った。
- ・副教材があると、単調な文法の授業も楽しくなることがわかった。
- ・具体的な教材及び副教材をいろいろと提示してもらい、大変参考になった。

(第10回)

- ・動詞カードは、形容詞カードに比べてとっつきにくいという印象があったが、今回のようなゲームをすれば覚えると思う。
- ・絵などホームページにアップしてもらえると助かる。
- ・動詞ポケットカードが意図的に作成されていることがわかった。
- ・日本語の「動詞」そのものの性質を再認識させられた。
- ・14枚の基本動詞を繰り返し練習する大切さが、良くわかった。
- ・「はまっこ」では、きちんと指導方法が決めてあって、効率的な指導が進められていて感心した。
- ・単語から文章にステップアップするときには困難があると思う。
その時、子供達がどんなことに躓くのか、またその解決方法も聞きたかった。
- ・自分が指導している子供達は会話が先行しているので、初歩からのステップを踏んだ指導ができなかった。教材選び、指導方法など常に悩んでいた。教材の工夫により不足分を補うことなどとても参考になった。
- ・カードを使った学習法を実際に体験できたことがとてもよかった。自分の授業にすぐ応用してみたい。

(第11回)

- ・高校生以上の大人に接するには「整理と資料」という大切な事柄を教えられた。
- ・教える側が文法の知識を持ち内容を整理したうえで、授業に臨んでいきたい。
- ・実践も取り入れてくれて楽しく受講できた。
- ・絵、写真などのカードを有効に使っていくことの大切さを今日も学んだ。
- ・助詞について意識していなかったのが、新鮮だった。
- ・日本語は教材作りが大変なので、少しの工夫で楽しくわかる授業づくりができないものか。
- ・外国人に日本語を教えることが、実は自分の国語の勉強になり、国文法の学習も一考する余地がある。
- ・西貝教室 家族で一緒に通えて、暖かい雰囲気の中で楽しく学習している様子が伺えた。
- ・西貝教室の学習記録カードは参考になる。
- ・もうぶの形容詞、動詞カードはもっと広く利用されるといい。

(第12回)

- ・JSL 国語科の基本的な考え方をより理解することができた。
- ・最初の池上先生の講義から半年経って、自分の理解度が少し増えていると感じた。
- ・具体的に「白いぼうし」を取り上げ、アプローチの仕方を話し合い考えていったのはよい勉強になった。
- ・「白いぼうし」を例にグループで話し合ったことで、ワークシートの活動に入る前の活動、内容を視覚化するための工夫など自分の気付かなかった指導法を知ることができた。
- ・現場に帰って直接指導に生かせる研修で、大変有意義だった。
- ・日本語の習得だけでなく、教科指導の中で学ぶ力を育てることが重要であることがわかった。
- ・今の学校内では、取り出しの中では、遅れてできなかったドリルやテストをやることも多い。今後、できるだけ学習への先行・並行・後行支援をしていく教師がもっと増えてほしいと思った。教育現場はもっと真剣に考え取り組んでほしい。
- ・中学の勉強となると、内容も難しく、外国人担当や支援員には限界がある。外国人担当に任せきりの実態もある。
- ・日本語ができる子どもを育てるのではなく、日本語で生きていけるための力をつけることであるというお話が印象に残った。

2 実施主体からの研修内容結果評価

- ①外国人が置かれている子どもたちの現状と課題を提示できた。
- ②言語習得の理論を提示できた。
- ③環境によって必要な日本語が異なるので、子どもの発育歴に応じた指導の必要性を提示できた。
- ④「はまっこ」教室見学を講座に入れたことで、子どもに日本語を教える難しさを理解してもらえた。
- ⑤母国語教室「まつっこ」を見学を通じて、母国の言葉を読み書きできるようにするこの教室は、アイデンティティ確立のために重要な場所だと感じてもらえた。
- ⑥受講者のスキルアップができた。
 - ・外国人向けの日本語文法
 - ・独自に開発した教材の提示による、文法の基本を分かりやすく教える方法と必要性
 - ・J S Lの理論など

3 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ① 近隣の国際交流協会など支援団体との連携を一層強化する。
- ② N P O法人会員及び日本語教育支援者ともに、自己研鑽に励む。
- ③ 入学前幼児に対する日本語教育支援及び保護者への情報提供をする。
- ④ 日本語教育を必要としている不就学の外国人児童の就学援助をする。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・教育関係者とのコミュニケーションネットワークができた。
- ・県西部各地域の日本語支援関係者との連携ができた。

② 研修後の人材活用

- ・近隣の国際交流協会で、受講できなかった人への受講内容報告会の開催。
- ・必要な人材紹介。
- ・当N P Oへの入会推進と活動。

(12) 今後の課題

- ・今回の講座が好評だったので、継続性を持ってこのような講座を開催していく。
- ・今後は、日本の高校に進学することが中学生の目標となる。そのためには、県西部が一丸となって市と県の教育委員会の連携を強めるよう働きかけることが必要である。
- ・教材開発をしたり、カリキュラムを組んだりする人材の育成が求められている。